

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」第2回選定地区訪問

「せせらぎの郷」（滋賀県野洲市）

平成28年2月2日、第2回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選定された滋賀県野洲市の「せせらぎの郷」を訪問し、代表の堀会長をはじめメンバーの方々から、活動の概要や今後の取組などについてお聞きしました。以下にその内容を紹介します。

（活動概要）

○生きものと人が共存できる農業を目指して

「せせらぎの郷」では、琵琶湖の湖魚が水路を通じて田んぼで産卵・生育し、琵琶湖に戻るという田園環境を取り戻すため、減農薬、無科学肥料での米づくりや、日本酒の製造・販売による6次産業化の取り組みなどを推進しています。また、農作業体験や田んぼの稚魚の観察会等、都市住民との交流活動を通じて地域住民の自然環境に対する意識の向上にも取り組んでいます。



○組織の設立経緯について

この地域は、かつてクリーク地帯であり、琵琶湖と田んぼがつながっていたことから、以前はたくさんの湖魚が見られましたが、ほ場整備事業等によって水路と田んぼの段差が大きくなった結果、田んぼに湖魚が入れなくなりました。また、若者の農業離れも進み、後継者不足という課題も見え始めていました。

そうした危機感のなかで、先祖代々守られてきた水田を、集落全体で次世代に引き継いでいきたい、もう一度、かつての豊かな生態系の仕組みを取り戻したいという思いを抱き始めていたところに、平成19年度から農地・水・環境保全向上対策が始まりました。また、それと並行して、県も環境保全を強力に推進する取組を始めており、それらの動きがきっかけとなって、地域ぐるみで生物多様性に配慮した農業に取り組むことを目的とした「せせらぎの郷」を組織することとしました。

琵琶湖と共生する環境こだわり農業は、県下全域で取り組まれており、野洲市内においても32の活動組織が同様の取組を行っています。中には代替わり等で活動自体が弱くなっている組織も見受けられますが、当組織は会長をはじめ、強力に推進するメンバーがいるおかげで積極的な活動が継続できています。

○魚のゆりかご水田プロジェクトについて

平成20年度から、琵琶湖と田んぼがつながり、フナなどの湖魚が産卵し繁殖することのできる田んぼを再現する「魚のゆりかご水田」の実現に取り組み始めました。

具体的には、田んぼがかつて有していた魚の産卵場所としての機能を取り戻すため、排水路を堰板や土のうなどで階段状に堰上げして魚道を造り、田んぼに遡上しやすい環境を整えていくというものです。今では、農地・水・環境保全国向上対策の支援を得て、排水路の法面コンクリートの溝に堰板をはめ込むだけですむように改良していますが、当初は土のうを設置していましたのでかなりの重労働でした。こうした取組によって、かつて琵琶湖周辺の田んぼでごく当たり前に見られた湖魚（フナ、ナマズ、コイ等）が琵琶湖から水路にやってきて田んぼで産卵・生育し、中干し時期には琵琶湖に戻っていくという生息環境を取り戻すことができました。



魚道での生きもの観察会の様子

○魚のゆりかご水田米について

現在、野洲市内にある32の活動組織のうち5つの組織が「魚のゆりかご水田米」に取り組んでいます。消費者に対し直接販売まで行っているのは「せせらぎの郷」のみで、そこが他の組織と大きく異なるところです。

須原地区内の水田面積は約44haですが、現在は生産調整によって約30haで米の作付けが行われ、そのうちの約10haで「魚のゆりかご水田」に取り組んでいます。

収穫後に自家乾燥まで行う面積は約7haで、「魚のゆりかご水田米」として直接販売するのはその半分程度（約3.5ha）になりますが、人にも魚などの生きものにも優しいお米として消費者に提供しているところです。

消費者に直接販売を行うきっかけとなったのが、水田オーナー制を導入したことであり、オーナーには収穫した米を保障しているため、稲刈りから販売に至る行程を全て「せせらぎの郷」で行っています。「魚のゆりかご水田」のオーナーは公募により毎年10組程度を選んでおり、田植えから収穫に至るまで、様々なイベントを通じて交流を行っています。

また、昨年からは完全無農薬栽培の取り組みも始めましたが、栽培の手間はかかるし、葉いもち



田植え体験、稲刈り体験の様子

病の発生などで10a当たり5俵（約300^{キロ}）程度の収量となるなど、中々難しい取り組みとなっています。

○6次産業化への取り組みについて

「せせらぎの郷」では、体験型イベントの実施を基本とした都市住民との交流のほか、地域ブランド作りによる6次産業化にも取り組んでおり、地元酒造会社の協力のもと、平成25年産「魚のゆりかご水田米」（コシヒカリ100%）による純米吟醸酒「月夜のゆりかご」の製造・販売を開始しました。幸いなことに、非常に飲みやすく、美味しいお酒として好評を頂いています。

本酒は平成26年度「ココクール マザーレイク・セレクション2014」で滋賀県の名産として認定され、全国にPRが行われるため、今後の販売も大いに期待しているところです。今後は、「月夜のゆりかご」と「魚のゆりかご水田米」のブランド化の定着と販路の拡大を目指すとともに、お酒の製造過程で出る米の削りかす（粒の粗い米粉）を使った新たな加工品開発にも取り組んでいきたいと考えています。



魚のゆりかご米で作ったお酒「月夜のゆりかご」

○その他交流活動等について

「せせらぎの郷」では、現在、「魚のゆりかご水田」の現地研修や研究を通じて様々な大学との連携を推進しており、滋賀大学からは昨年度よりインターンシップの受入を開始しています。また、「生きもの観察会」や「農業体験」などによる都市住民との交流、米・湖魚などの伝統食や伝統文化の継承、農業後継者の育成推進などの取り組みも継続し、先人の残した貴重な財産である須原の地域資源を後世へ伝え、地域を活性化していきたいと考えています。今後は、こうした取り組みや環境に関心のある地域や人との連携をますます深めていきたいと思っています。

○ディスカバー農山漁村の宝の影響について

「ディスカバー農山漁村の宝」への応募で何より感激したのが、今回から始まった応援メッセージを通じて見知らぬ人からの温かい声が約100通も届いたことです。このことは、まったく想定していなかったことであり、驚くとともに本当にうれしく思いました。また、官邸に招かれた際には、安倍総理から、「誇りと自信をもって横展開してください。」との激励を受けました。これらは、今後活動を継続していくうえでの励みとなっています。

滋賀県知事及び野洲市長へも後日訪問して報告を行ったほか、取組み活動を発表する機会があれば「ディスカバー農山漁村の宝」ののぼりを担いでPRを行っています。その他、京都新聞や中日新聞からは電話取材を受け記事に取り上げられ、また、野洲市の広報紙にも取り上げられました。ただ、正直に言うと、「ディスカバー農山漁村の宝」の知名度はまだ低く、一般の方まで価値が浸透していないと感じています。自分達も「ディスカバー農山漁村の宝」に選定されたことを世間に広めていきたいと思っていますが、もっとこの表彰事業の価値そのものを高めていただくと、選定された意義が一層高まると思います。



「せせらぎの郷」メンバーのみなさん

○今後の活動展開等について

ゆくゆくは「せせらぎの郷」を法人化できれどと考えています。今のメンバーでも法人化はできるのですが、後継者がおらず、5年先がどうなるか見えないため、法人化に向けて二の足を踏んでいる状態です

また、この活動を持続可能な取組みにするためには、環境と経済の両立を目指す必要があるため、田んぼのオーナー制度を継続させ、都市農村交流活動など都市へのPRを一層進めるとともに、「魚のゆりかご水田米」及び「月夜のゆりかご」のブランド力の向上と更なる販路拡大に取り組む必要があります。これらの取組を更に発展させるためには克服すべき課題等もありますが、結果的に活動支援者から環境等の取組みを行って良かったと言ってもらえるようになりたいです。そして、多くの消費者に「魚のゆりかご水田米」を食べてもらうことが自分達の活動を広めることになるため、もっと販売面を強化していきたいと考えています



訪問日時：平成 28 年 2 月 2 日 13:30～15:00

対応者：堀彰男会長、北川保寿副会長、東智史須原農業組合長

訪問者：阪口課長、松岡補佐、野村係長

※「ディスカバー農山漁村の宝」に関する問い合わせ先 TEL:075-414-9050

近畿農政局農村振興部農村計画課 松岡、野村まで

※「せせらぎの郷」に関する問い合わせ先 TEL：090-9214-0055